第6学年　外国語科学習指導案

1　単元名　　『残念じゃない生き物を発表しよう！』
New Horizon Elementary6 Unit5 「We all live on the Earth.」

2　単元の目標

・地球に暮らす生き物について発表することができる。
（知識・技能）

・地球に暮らす生き物について，それらの生き物の特徴や魅力が相手に伝わるように内容を考えたり，発表を工夫したりしている。
（思考力・判断力・表現力等）

・地球に暮らす生き物について，それらの生き物の特徴を相手により魅力が伝わるために内容を考えたり，発表を工夫したりしようとしている。
（学びに向かう力,人間性等）

3　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地球に暮らす生き物について発表することができる。	地球に暮らす生き物について，それらの生き物の特徴や魅力が相手に伝わるように内容を考えたり，発表を工夫したりしている。	地球に暮らす生き物について，それらの生き物の特徴を相手により魅力が伝わるために内容を考えたり，発表を工夫したりしようとしている。

4　単元と指導の構想

（1）

【児童の実態】

外国語について苦手意識をもつ児童は多い。特に話すことについては，自信をもって英語を話すことに対して苦手意識や，抵抗感をもっている。そこで，児童に「自信をもって外国語を使う」という体験をしてもらうために，Unit3 では，班で外国を紹介する活動を行った。班ごとで動画作成をして発表としたため，児童は何度も練習して友達と動画を撮り，「自信をもって発表動画を撮ることができた」と振り返っていた。そのため，本単元でも 3 人グループでの活動を行う。

本単元では,地球に暮らす生き物について調べ，隣のクラスに発表を行う。自分の「残念じゃない生き物」について友達に知ってもらったり，友達がどんな動物が好きかを聞いたりすることで相手意識を育む。また，児童が自信をもって発表することができるように，話すこと【やり取り】の時間も取りながら段階的に単元を構成していく。児童同士，相互のかかわりを意図的に取り入れることにより「残念じ

ゃない動物」について発表することに自信がもてるようになると考える。

【単元について】

本単元では，児童も知っている『ざんねんないきもの辞典』をもとに，実は一生懸命生きていて，魅力たっぷりの「残念じゃない生き物」を発表し合う活動を行う。生き物や，自然の言い方，生き物同士のつながりの表現を取り扱うため，児童も親しみをもてると考える。第１時に児童にとってのメインアクティビティの１つである動物発表のモデルを提示し,単元の見通しをもたせるとともに言語活動に対する意欲を喚起する。第２時では,自分の好きな動物について，どんな食生活をしているか，どこにすんでいるかなどを尋ねたり答えたりする表現を使ってやりとりを行う。また，発表する動物について考える。第３時では，まず，最初の動画を撮影する。第４時では「残念じゃないポイント（super)」を取り入れた発表内容を考え，第５時では，発表の仕方についての工夫を児童が自分自身で発見する。児童自身が「こうするともっと魅力が相手に伝わる！」ということを自分の動画を見て自発的に気付くことで，より意味のある工夫となるようにする。第６時では，４・５時間目に自分たちで見つけた工夫を総動員して動画を再撮影し，良かった点やもっとこうしたほうがよいといったことを確認する。第７時で隣のクラスに発表する。発表内容を吟味するために，毎回 ICT 端末を使用し，自身の動画を記録に残す。自分の発表を見直すことでどこを直したらよいかを考えたり，前回よりもどこが成長をしているかをメタ認知したりすることで話すことに自信をもてるようにする。

(2) 指導の構想

本単元で目指すゴールの姿は，「残念じゃない生き物について自信をもって発表する姿」である。そのために，本単元では外国語への苦手意識を取り除き，自信をもつための手立てを講じる。

手立て①単元を通して相手を変えて発表する場を設定し，何回も表現を使えるようにする

ゴールの姿に向かうために，児童全員が本単元の言語材料である”～live in ・・・” “～eat ・・・.”に十分に慣れ親しんでおく必要がある。そのために，単元の中で相手を変えて何度も練習を行う。まずは，ペア活動を会話形式で行う。その後は，３人グループを基本として，動画を撮るなどの練習を行っていく。発表する相手を隣のクラスの児童にすることで，自分のクラスで相手意識をもって練習したり，興味をもって相手の話を聞いたりすることができるようにする。

自分が選んだ「残念じゃない生き物」について，相手を変えて何度も練習を行うことで本時で用いる英語表現を話す際に，自信をもって活動に取り組むことができると考える。

手立て②CAN-DOリストを使用して，児童が自分の到達度を確認する。

自信をもって英語を話すためには単元終了後に児童自身がどのような姿になってい

るかを児童と共有するたことが有効であると考える。そのために，CAN-DOリストを使用する。また，単元を通して言語活動を行った際に，自分は現在どの段階かを色で表現し，提出する。単元を通して何度も変更を行うため，新潟市版のデジタルCAN-DOリストを使用する。また，CAN-DOリストの文言については，より単元のねらいを達成できるものに寄り添うように書き換える。

手立て③工夫するポイントを児童が自分たちで気付いていくために動画を提示する。

第４時・第５時に，発表内容の工夫について既習事項を使用することや発表の仕方について児童自身が自分で気付くことができるようにする。そのために手本動画や，前時までに撮りためた動画を児童に提示し，児童が「相手により魅力が伝わるためのポイント」を見付けられるようにする。児童が見付けたポイントは一覧表にしてデジタルで配付する。第６時でお互いに動画を見合い，コメントし合う時の基準となるようにする。

手立て④ICT端末の活用

児童が，単元の言語材料を効果的・効率的に習得したり，発表に自信をもって臨んだりするためにICT端末を活用する。

１つ目は，客観的に自分の発表を見る機会を作るためである。発表練習の際に，自分の話している様子を撮影し，何度も見返したり，動画を撮り直したりすることで相手に魅力が伝わる発表にしていく。（言語面・内容面）

２つ目は，ロイロノートで友達の動画にコメントをすることである。自分で撮った動画の共有をグループの仲間と共有ノートで行い，考えたことを友達と共有する。良いことは自信になり，アドバイスをもらえば，改善することができる。また，そのコメントをもらった後にもう一度動画を撮り直し，前後で見比べる。

５ 単元の指導計画

時間	学習内容（★）と学習活動（〇）	評価　（評価方法） 【知】・【思】・【主】
1	★隣のクラスの友達に「残念じゃない生き物」について発表することを児童に伝え，ゴールへの見通しをもつ。 〇発表することについて理解し，ゴールの姿,必要な表現について確認する。	本時では,記録に残す評価は行わないが,目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても,教師が児童の学習状況を確認する。

2	★相手が選んだ「残念じゃない生き物」について，食生活や生息場所について尋ねたり，答えたりする表現を使う。 ○モデルを聴き，食生活や生息場所を尋ねたり，答えたりする表現を知る。	本時では，記録に残す評価は行わないが，目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間 においても，教師が児童の学習状況を確認する。
3	★発表内容について考える。 ○前時をもとに「残念じゃない生き物」について発表する内容をまとめ，練習をする。 ○練習をした後，３人組になり動画を撮影する。	地球に暮らす生き物について発表することができる。【知】（行動観察，撮影動画）
4 5	★発表内容や発表の仕方について考える。 ○発表内容の工夫について動画を見ながら考え，自身の発表に生かす。（第４時） ○発表の仕方の工夫について動画を見ながら考え，自身の発表に生かす。（第５時） ○それぞれの時間で一回は動画を撮る。	「残念じゃない生き物」について相手により詳しく伝えるために内容を考えたり発表を工夫したりしている。【知】・【思(主)】（撮影動画，行動観察，振り返りの記述）
6 （本時）	★動画の最終確認 ○４・５時間目に見付けたポイントをもとに自分の発表動画を修正する。 ○３人グループ内で見合ってコメントをする。	「残念じゃない生き物」について相手により詳しく伝えるために内容を考えたり発表を工夫したりしている。【思】（撮影動画，振り返りの記述）
7	★隣のクラスに発表する ○聞き手は反応するなどして相手がどんなことを伝えたいかを考えながら発表を聞く。	自分の「残念じゃない生き物」について発表することができる。【知】（行動観察，振り返りの記述）
8	★世界と日本の文化や環境について理解を深める ○絶滅危惧種について知る。 ○語順を入れ替えるとどうなるか考える。	本時では，記録に残す評価は行わないが，目標に向けて指導を行う。

6　本時の計画　（６時間目／全８時間）

(1) ねらい

「残念じゃない生き物」の発表について，動画視聴をし，工夫ポイントをアドバイスし合うことを通して，自分の選んだ動物の魅力が相手に伝わるように工夫することができる。

(2) 構想

本時では,児童が「残念じゃない生き物」について発表する。本時は，第４時・第５時で見つけたポイントを深める時間である。前時までに獲得したポイントを再確認する。その上で，どの児童も自分の選んだ動物についてのどんなものを食べるか，生息地などの生き物の特徴について自信をもって発表することができ，児童の思いがより相手に伝わるようにするために次の手立てを取り入れる。

手立て①前時までに児童から出たポイントをまとめて共有する。

前時までに出た工夫する際にチェックしたいポイントを再度確認する。第４時，第５時に出たものを１枚のカードにまとめて児童と共有する。児童がそれを参考にしながらに自分の発表を見直したり，友達にコメントしたりできるようにする。

手立て②撮影した動画を３人グループ内で共有し，お互いにコメントを書く。

手だて①で撮影した動画をロイロノートの機能「共有ノート」でグループで共有する。児童は共有された動画を見て，良いこと２つ，アドバイス１つ（two stars and wish）をコメントとして残す。そのコメントをもとに再度，動画を撮ってみる。繰り返し動画を撮ることを通して，童が自分の発表内容や発表することについて自信をもてるようにする。

(3) 展開

学習活動	教師の働きかけと予想される児童の反応	■評価規準（方法） 〇留意点
１．あいさつ （１分） ２．Warm-up （３分） ３．活動の確認 （２分）	T1: Hello, everyone. How are you? C1: Hello. I'm fine. T2: Let's sing. T3: 前回までにやったことを使って自分の発表がよりよくなるために工夫しましょう。 「残念じゃない生き物」の発表をもっとよくしよう。	〇前時までに発表がうまくできていない子をピックアップしておく。 〇前時で使った表現をLet's singを歌う。 〇本時の活動を全員で確認し,学習の見通しをもたせる。
４．みんなで見つけたポイントの確認 （３分）	T4: 前回までにどんな工夫ポイントが出たでしょうか。 C2: 声の大きさ C3: できることを can を使って伝える T5: まとめましょう。	〇前時までに出たポイントを確認する。大きく分けると内容と発表の仕方の２つあること

	内容 ・can を使う ・文を増やす ・意外性を付け足す 発表の仕方 ・大きな声で話す ・ジェスチャーを付ける	を確認する。
５．動画を撮影する。 （３分）	T6: 今確認したことを意識して動画を撮ってみましょう。 C4: 前回少し聞こえづらいと言われたから声を大きくしてみよう。 C6: Hello, I like panda. Pandas eat honey. Pandas live in the mountain. Thank you	○教師は今までの児童の様子から自分の思いを伝えきれていない児童を把握する。
６．撮影した動画を使って友達と改善できる点について話し合う （７分）	T7: 自分が選んだ動物がどれだけ残念じゃないかを伝えるにはどうしたらよいか友達と相談してみましょう。 C5: パンダって他に何か残念じゃないポイント無いの？ C6: そういえば足が速いっていうのが合った。それを足したらみんなパンダが super（残念じゃない）かが分かるかな。 C7: Pandas can run fast.って言えばいいね。	○３人一組で話合いを行う。 ○教師は児童に「自分の思いが伝わったかどうか」を意識させるようにする。
７．動画撮影 （１０分）	T8: もう一度発表をして動画を撮りましょう。友達からもらったアドバイスから，一つ以上選んでそれを意識しましょう。撮り終わったら，どこを意識したかを自分の動画に書きましょう。 C8: Hello, I like panda. Pandas eat honey. Pandas can run fast. Pandas live in the mountain. Thank you.	○児童は再度動画を撮影する。 ○撮った動画に５との変更点を記入させる。 ■友達からのアドバイスを受けて，より自分の思いが伝わる発表にすることができる。（行動観察）
８．振り返り（７分）	C9: より残念じゃない感じが伝わるように前に使った can を使ってパンダの	

	足が速いことをいれました。 T9: Stop talking. Reflection time. CAN-DOリストでの自分の出来具合も確認しましょう。また，今日撮った動画も提出箱に出してください。 C10: 前に使ったcanを使ってパンダの足が速いことをいれました。聞いた人がびっくりすると思います。 C11: 友達に大きい声を出した方が言われたのでもっと大きな声で話すようにしました。 C12 :思ったより話せたから真っ白に塗ろう。 T10: That's all for today. Good bye, everyone. C13: Good bye.	○振り返りカードには振り返りの観点を示し，児童にとって何を振り返ればよいかを明確にする。 ○CAN-DOリストの色付けを行い，振り返りとともに提出させる。 ○撮影した動画は動画用の提出箱に提出させる。

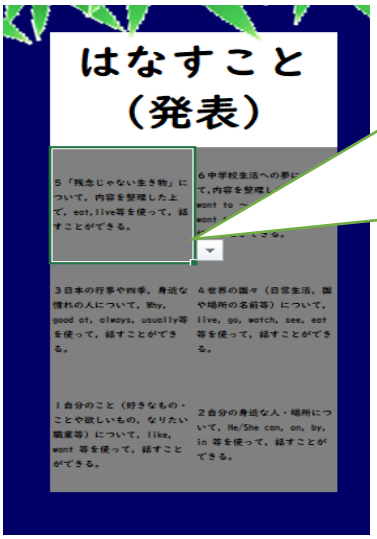
(4) 評価

「残念じゃない生き物」について，友達からのアドバイスを受けることを通して，自分の選んだ動物の魅力が相手に伝わる発表にすることができたか。

(行動観察・提出動画確認・振り返りの記述)

【思考力・判断力・表現力等】

(5) 資料（CAN-DOリスト項目）



新潟市版 CAN-DO リスト

○夏休みの思い出，地球の生き物，身の回りの物と世界のつながりについて，内容を理解した上で，went, enjoyed, ate, was 等を使って話すことができる

南中野山小学校版 CAN-DO リスト

○「残念じゃない生き物」について，内容を整理した上で，eat, live 等を使って，話すことができる。

7　参考文献・資料

『おもしろい！進化のふしぎ　ざんねんないきもの事典』　高橋書店